

## 2. ヒグマをめぐる人間活動

### 2-1 クマ猟

#### 2-1-2 クマの生態

クマは、3月の彼岸の頃に巣から出ると言う。

[貫気別 上田トシ氏]

スイートコーンに実が入る頃になると今でもクマが出る。

[貫気別 黒川セツ氏]

子供の頃に馬を山に離しておいたらクマに捕られてしまい、子馬がいない。クマは山の中に馬肉を引っ張って行って、囲っていたと言う。

[貫気別 黒川セツ氏]

#### 2-1-3 猟の準備

エカシが家で、矢にスルク surku (トリカブトの毒) を松脂 (マツヤニ) でつけているのを見たことがある。

[貫気別 黒川セツ氏]

エカシはマタギでクマを獲る人だった。猟に出るときは、1週間分の塩、油、ヒエ、プクサラー pukusa ra (ギョウジャニンニクの茎) を持って、魚でもアキアジでもシカの肉でも自分達の食べる分をサカンケ sakanke (干すためにゆでる) して持って行って、山で山菜をとって食べながらマタギをしたらしい。

[貫気別 黒川セツ氏]

猟のために家を出る時、ポロシルン カムイ poro sirun kamuy にカムイノミ kamuynomi (神に祈る) して、フチアペ húci ápe (火の神) にカムイノミ kamuynomi (祈る) する。ポロシリにもカムイノミしないと山に入れない。

山に出る前、チセ コロ カムイ cise kor kamuy (家の守り神) にもカムイノミ していた。家の守り神は、チセ コロ クル エプンキネ カムイ cise kor kur epunkine kamuy (家の主人を守る神) とも言う。エカシ ekasi を守る神という意味だが、家族全員を守る神だ。

[貫気別 黒川セツ氏]

#### 2-1-5 猟場と猟期

マタギ (猟) に行くところを、キムン イウォル kimun iwor と言う。エカシ ekasi (祖父) は、一週間分の塩、油、ヒエ、プクサラー pukusa ra (ギョウジャニンニクの葉) だとか持って行って、クチャ チセ kuca cise (狩小屋) をこしらえる。行ったとき行ったとき狩

小屋を作る。今年はシクシベツ sikus pet、来年はソシベツ sos pet という風に、いろいろなところへ行つた。これらのヌカビラの沢（額平川の支流）でクマとりをしたのだ。クマやシカを獲る場所は、メム mem（芽生）の奥の方で、シクシベツ、ソシベツの山であつた。

クッタラ kuttar の沢（イペペシナイ ipepesnay のかつち（源頭）の裏を流れ、庫富（門別の浜の方）に流れている）、セタナイ setanay、ニオイ沢は、近い猟場で、シカ、クマを獲りに行く場所だ。家から日帰りできる猟場だから小屋は作らない。

[貫気別 黒川セツ氏]

エカシは、シクシベツ、トシベツにクマ獲りに行つたらしい。

[貫気別 黒川セツ氏]

## 2—1—6 狩猟小屋

エカシは、獵に行くときには、そのつどその場で、クチャ チセ kuca cise（狩小屋）をこしらえて行つたものだ。（「狩小屋を建てる」ことを、クチャ カル kuca kar つて言う [上田トシ氏]

[貫気別 黒川セツ氏]

クチャ チセ kuca cise（狩小屋）そのものは見たことがないが、額平川の支流のソシベツ sospet、シクシベツ sikuspet の奥に建てたと思う。

[貫気別 黒川セツ氏]

## 2—1—7 狩猟活動

ウサ チコイキプ usa cikoykip と言うのは、山鳥、ウサギ、シカ、クマなどの山の獲物のことである。魚はチコイキプには入らないと思う。

[貫気別 上田トシ氏]

8歳の時、冬の3月か4月の頃だと思うが、うちのエカシ（黒川イコアンレキ）は、シクシベツに行つて、クチャ チセをこしらえて獵をしていたが、親子3頭のクマが穴から出てきたところを獲つた。エカシがメム mem（芽生）まで下がつてきて、メムの村にクマを獲つたことを告げると、その村の人達がみんな馬そりで迎えに行つたものらしい。

[貫気別 黒川セツ氏]

## 2—1—9 クマの解体・分配・運搬

山でクマを獲つたとき、山にヌサ nusa（祭壇）を作るかどうか、聞いたことがない。黒川八郎さんが近くのセタナイ setanay でクマを獲り、男5、6人で丸のまま担いで来たのを見たことがある。

[貫気別 黒川セツ氏]

## 2—2 クマの飼育

### 2—2—3 クマの食事

倉の下でクマを養ったそうだ。私が4歳で祖父の所へ来た時は、クマもホプニレ hopunire (送る) していなかったが、カムイキッチ kamuykitci (クマの餌を入れてやる容器) はあった。それで遊んでいたら、フチ húci (祖母) に、それはクマの茶碗だから、そんなもので遊ぶな、と言われた。長さ1メートル弱、幅1尺、高さ1尺くらいだった。丸太の中を削り抜いてあり、両側に板をはったものであった。

[貫気別 黒川セツ氏]

## 2-3 クマの送り

昭和19年にこのマカ・アチャポがクマ送り (カムイホプニレ kamuy hopunire) をした。

[貫気別 黒川セツ氏]

### 2-3-2 クマ送りの準備

エカシ (黒川イコアンレキ) がシクシベツ sikuspet の山で獲って、山で解体して下げてきたクマを送る時に、メム mem (芽生) から貫気別のコタンにも連絡が入り、カムイ kamuy (クマ) 獲ったカムイ獲ったと言うことで、村中イユタ iyuta (杵と臼で穀物をつく) して、ピヤパ piyapa (ヒエ) ついたり、アワついたりして、支度して、ドブロク作らなければならないと大騒ぎになっているところに、一日がかりでクマを持ってコタンに戻ってきた。

獲って下がって来たそのつぎの日がクマ送りの日だ。

私は、子供だから、村の人に「エカシがクマ獲った、クマ獲った」と言い回ると、みんなは、「ハー、ナヨルンアチャポ nayorun acapo がクマ獲った」と見に来た。イナウケ inawke (木幣削り) もして準備していた。トマ toma (ゴザ) を敷いて、アペサムソ apesamso (主人の座る座) を敷いて支度していた。

そのクマの肉や皮は、ポロプヤラ poro puyar (大きな神窓) から家の中に入れた。

[貫気別 黒川セツ氏]

### 2-3-3 クマ祭り

エカシ (黒川イコアンレキ ikoanreki) がクマをとると、クマ送りのために、二風谷、ペナコリ、メム、上貫気別、荷負本村からも、マタギ (猟師) の人が全部集まってきた。

[貫気別 黒川セツ氏]

エカシが親グマと仔グマ2頭をいっしょに獲った時、エカシの大きな家のアペエトウ ape etok (上座) に親グマをまん中に置いて、その両わきに仔グマを置いて、火の神の方にクマの顔を向けた。

自分が子供の頃、中に入って手を伸ばしても届かないくらい大きなシントコに酒こしらえて、3日も4日も送りが続いた。

メム mem (芽生) から上貫 (気別) から (荷負) 本村から客がきた。二風谷から萱野さんの父親の清太郎さんも来た。清太郎さんはユーカル yúkar も上手なパウエトウ pawetok (口

の達者な人) だった。

8歳の時にイコアンレキがシクシベツでとったクマを送る時、仔グマ(ポン ペウレプ pon pewrep 上田トシ氏) 2頭にも親グマにもイナウ inaw (木幣) もハル haru (食べ物) も別々に持たせるように、それぞれのクマの頭の所に置いた。仔グマにも別々に魂があるからそうしたのかと思っている。チェホロカケプcehorkakep (逆さ削り木幣) も立てた。親グマの毛皮をまん中はくるくる巻いて、手足4本だけは伸ばしておいて、皮の先にクマの頭を置いて、頭にイナウをつけた。仔グマの毛皮は小さいので巻かずに置いて、皮についている手足は伸ばして頭を置いた。

位の高い人がアペエトク ape etok (上座) に座り(ウウエソツキ uwesotki 「対面して座る」(上田トシ氏))、その中でも炉に近い人の方が位が高い人だ。女の人は、アペケシ ウトウツタ apekes utut ta (下座に) 座った。火の神(フチ アペ húci ape) に祈るカムイノミ kamuynomi を先にする。年寄りはいみんなクマ送りに呼んで来た。目の悪いエカシでも呼びに行つて連れて来た。年寄りはい一人も残さないように呼んだ。

カムイ サパ ホプニレ kamuy sapa hopunire (クマの頭骨を外の幣柵に安置する) する前に肉を配る。エカシ(祖父)は、カムイハル kamuy haru (クマ肉) を3切れとか5切れとかを箸くらいの長さのポンキ ponki (オニガヤ) に刺して、コタンじゅうに一軒に一本ずつ私に配達させた。私は、女なのにオクカヨ ラマツ コロ okkayo ramat kor (男の精神を持つ) しているからと、エカシが私に配達させた。家族の少ない家は3切れ、5人いたら5切れ刺したものを配る。一人が一切れはあたるようにする。カムイハルは、みんなに食べさせるということ、イサプテ isapte (食べ物を渡す) しても一人も逃さないように、ウエンクル wenkur (貧乏人) でもどんな人にも食べさせるものだなあと子供心に思った。クマの神がみんなの家に喜んで配られて行くからと言われた。そこの家のフチアペ húci ape (火の神) も神様も仏様もみんなで食べられるからと、私がエカシに持たされて来たんだよ、つて言ったら、フチ(年寄りの女性)は、「ヒー、オイオイ hi, oyoy」つてみんな喜んだ。

[貫気別 黒川セツ氏]

私もそういうオニガヤに刺したクマ肉を受け取ったことあるが、「エイメク eimek (おすそ分け) した」、エタルカ etarka (粗末にする) できないからと言って、オンカミ onkami (あいさつの仕草) して受け取る。クマ肉は少ないものだ。ポンノ ポンノ メイパメイパ ponno ponno meypameypa (少しちぎって) してホシキ カムイ フチ アコプン ネ ナ hoski kamuy húci a=kopun ne na (先に火の神にあげるよ) と言って火の神に渡してから人間が食べる。

[貫気別 上田トシ氏]

女の子は見なくてよいからオリパク oripak (クマに遠慮する) しなと言われた。エカシ(祖父)は、私がかawaiiものだから、メノコ ネ ヤクカ menoko ne yakka (女の子でも)、この子は、オクカヨ ラマツ コル okkayo ramat kor (男の精神を持つ) してるんだから、

みんな怒らないでくれと言った。私は自由に見ることができた（貫6-4-9参照）。

[貫気別 黒川セツ氏]

クマは、家を選んでやってくる。この家に行けばちゃんと祭ってもらえると思うから私のエカシの家に来たのだ（エカシはクマがよく獲れたということ）。親子クマ3頭で来るというのは、エカシの人柄を見ているからだ。このような話をエカシ同士がしているのを聞いたことがある。

[貫気別 黒川セツ氏]

20年前に、島野コウゾウさんという和人の獲ったクマの送りを頼まれて、現在の家でクマ送りをしたことがある。今は玄関の方を向いている座敷の窓が、昔のポロプヤル poro poyar（大きな方の窓）に当たるから、そこからクマを入れてクマ送りをおこなった。

西島テルばあさんと今ピラトリにいる黒川テンゾウさんと二人してクマ送りをしてくれた。西島さんは「シャモにも頼まれて、この家にクマが来ると言うことは、クマの神様がおまへの所に、この家に来たくて来るのだから。おまへの家の神様とクマの神様が話し合っこの家に来ることになったのだから」と言って、ポロプヤルから入れなくてはならないと言って、玄関の隣の東の方に向いている座敷の窓からクマの頭を入れた。

薪ストーブの横座に置いて西島テルばあさんと黒川テンゾウさんがちゃんとクマ送りしてくれた。

黒川テンゾウさんは、洞爺とか登別とかにカムイノミ kamuy nomi（お祈り）に歩いた人で、もう年金生活しているのだから66～67歳くらいになる。マタギしないのだけれど、女が神に祈るわけに行かないということで、西島さんが頼んでくれた。一言でもいいから、カムイノミして、クマの神さんに言葉かけてから、女の人がやるようにとすることでやってくれた。みんな集まって、町からも集まって、ホリブパ horippa（踊り）したりして、ヌサ nusa（祭壇）もないし、昔のようにはいかないけれど、立派にクマ送りをやった。年寄りがたくさんいたから、フチ huci 達が集まって女ばかりだけれどきちんとしてくれた。何十年ぶりでやってみた。

[貫気別 黒川セツ氏]

#### 2-3-4 頭骨の処置

エカシ ekasi（祖父）の獲った親子グマの送りの時、家の中でのカムイノミが終わると、カムイサバ kamuy sapa（クマの頭骨）をポロプヤル poro puyar（大きな窓）から出した。家の中からクマの頭を出す人と外でそれを受け取る人が別について、一人から二人が外で頭骨を受け取る。頭骨を乗せる木（カムイサパウンニ kamuy sapa un ni）にクマの頭を乗せる。

[貫気別 黒川セツ氏]

夕方にクマの頭を家の外のヌサ nusa（祭壇）に出す。カムイ ホプニレ kamuy hopunire したら（クマの神を送ったら）、また家の中でカムイノミ kamuy nomi をする。エカシたちは、あちこちの神にトゥキ tuki（盃）をたがえていた（捧げていた）。それが終わるとユーカラ yu kar（神謡）を朝までしていた。

[貫氣別 黒川セツ氏]

### 2-3-6 クマへの土産

親子グマを送ったとき、クマにはお土産を持たせた。魚、ムンチロシト *munciro sito* (粟団子)、シラリ *sirari* (酒粕) を持たせた。ムンチロシトは、直径20cmほどのもので、3つに切り分けられている。それでアチャシト *a=ca sito* (切り分けた団子) とも言う。

[貫氣別 黒川セツ氏]

### 2-3-7 クマが帰る先

ホプニレ *hopunire* されたクマ (送られたクマの神) は、「あの世」「天」に戻ると、神様たちが集って来て、皆でマラット *maratto* する (酒宴を行なうということか—編集者)

[貫氣別 黒川セツ氏]

クマが神の国に帰るとき、ムジナ (タヌキ) の神がいつしよに行くというカムイユーカラ *kamuy yúkar* (神謡) を聞いたことがある

[貫氣別 黒川セツ氏]

## 2-4 その他の情報

30歳の頃だと思うが、あるコタンのクマ送りに行ったときに、私を誰だか知らないものだから、みんなからカマカマ イサプテ *kámakáma isapte* (酒の入ったトウキ *tuki* (盃) が頭を通過する) してトウキをもらえない。カマカマ イメク *kámakáma imek* (差別される) してもらえない。カムイ ハル *kamuy haru* (クマ肉) 少しでももらえたら、ヌプキ ペツコタンから カプカシプクネ ヤクカ タパンペ ネ ノ *nupki pet kotan* から *k=apkasipku=ne yakka tapanpe ne no* 「貫氣別コタンからやってきた者で私はありますのでこうしているのですよ」って、チャルパ *carpa* (先祖供養のために食べ物を撒く) しようかと思っていた。そうしたら、うちのエカシ (祖父) 達も酒宴する (イクタサ *ikutasa*) からと思つて、フチ *húci* (祖母) やらエカシ *ekasi* (祖父) やらも一緒に私について来ていると思うから、誰か私にトウキ *tuki* (酒杯) をくれれば、フチ アペ *húci ape* にカムイノミ *kamuynomi* しようと思つていたのに、トウキでも団子でも私の頭の上を通過して行く (イサプテ *isapte*)。そういうのをカマカマ イメウ *kámakáma imek* 「区別される」って言うんだ (上田トシ氏)。

窓から私の名を呼ぶ声がすると思つたら、(川上) 勇治さんがもらってないべと声かけてくれて、トウキ *tuki* (盃) を渡してくれた。それでカムイノミ *kamuynomi* (神への祈り) して勇治さんに返した。何でカムイハル *kamuy haru* (クマ肉) もくれないのかと思つたかという、シンヌラプパ *sinnurappa* (先祖供養) でもカムイホプニレ *kamuyhopunire* (クマ送り) にでも行って、イサプテ *isapte* (渡す) してもらえなかつたら、先祖もイコイトウパ *ikoytupa* (欲しがる) して軒下で泣いているということをエカシやフチから聞いていたので、イサプテ してもらいたいなあと思つただけだ。

[貫氣別 黒川セツ氏]